

ミューズ No. 37 平和のための博物館・市民ネットワーク通信

発行：2017年6月

編集：山辺昌彦、山根和代、安齋育郎

イラスト：戸崎恵理子& Pegge Patten

事務局：戦争と平和の資料館ピースあいち 宮原大輔

住所：〒465-0091 名古屋市名東区よもぎ台 2-820

Tel & Fax: 052-602-4222

第9回国際平和博物館会議が ベルファストで開催される

INMP 理事 山根和代

2017年4月10日から13日まで北アイルランドのベルファストのアルスター大学で、第9回国際平和博物館会議が開催された。これまでは INMP (International Network of Museums for Peace 平和のための博物館国際ネットワーク)に関係する平和博物館が主催で開催されてきたが、今回初めて紛争後和解を求めているベルファストで開催された。

この会議は、1992年にイギリスのブラッドフォード大学において開催された第一回国際会議以来、ほぼ3年に一度のペースで開催されてきたが、今回は第9回会議としてベルファストで開催された。テーマは、「平和のための生きた博物館としての都市」で、ベルファストが対立の深かった都市から平和と和解の都市へ変遷した焦点を当てた。今回の国際会議は、INMP 創立25周年記念の年でもあった。

4月10日に開催された理由は、ベルファスト合意が、1998年4月10日にイギリスとアイルランドの間で結ばれた19周年記念日だったからである。しかしこの時期は日本では新学期のため、いつも参加している大学研究者が参加しにくい会議となった。

参加者は22か国から140名参加し、日本からは25名(琉球放送の取材関係者を含めると27名)が参加した。福島プロジェクトでご多忙の安齋育郎名誉館長(INMP理事)は国際会議に参加することはできなかったが、これまで国際平和博物館会議を2回開催した経験を活かし、ベルファストでの国際会議プログラムの作成、日本人参加者のための国際会議英文報告要旨の和訳集の編集・作成、INMPの体制の在り方への提言など、日本だけでなく国際的に会議の準備に関わられた。



erico

国際会議の前には、イギリスのブラッドフォード平和博物館、平和学部のあるブラッドフォード大学などを訪問する機会があり、日本から17名参加した。平和運動に関する展示だけでなく、ブラッドフォードに実際に来た難民の方が書いた絵の展示もあり、ある参加者は「ブラッドフォード博物館を訪問して、平和をつくる活動に関わる様々な記録やポスター・旗などが展示されていることに感動した」と感想を書いていた。

国際会議では本会議以外に多くの分科会が二日間同時に開催され、すべて参加することは不可能であった。しかし幸いなことに、報告者の要旨や原稿はオンラインで読むことができるようにしている。英文であるが、INMPのウェブサイト(<https://www.inmp.net/1204-2/>)で報告の要旨、英文原稿などを入手できる。

また報告要旨の日本語は安齋名誉館長と山根によって冊子としてまとめられたので、英語を使わない方も読むことができる。現在参加者の感想文を編集中だが、それを読むと国際会議の全体が理解できよう。

国際会議では何よりも平和のための博物館関係者が様々な考えや展示について意見の交流が直接できる。今回も多くのことを学ぶと同時に、懐かしい友人との再会、また新たな出会いを楽しむ国際会議となった。

Museums for Peace Worldwide という世界の平和博物館のリストを作成したが、それはINMPと安齋科学・平和事務所のウェブサイトで紹介されている。各平和博物館の情報を含めたCDも作成し、今後広く紹介したいと考えている。

なおINMP Newsletter 18は安齋先生の編集で、INMP25周年の特集号になっている。INMPの歴史、25周年への祝辞、INMP出版物など盛りだくさんの内容である。日本

語版がINMPのウェブサイトに載せられる予定である。



ベルファスト市庁舎で
(最前列中央は、ベルファスト市長)

朝露館との出会い 朝露館への誘い
もう一つの益子焼、もう一つの美術館

朝露館世話人 吉岡志朗

栃木県益子に朝露館(ちょうろかん)＝関谷興仁陶板彫刻美術館があります。現在85歳の関谷興仁さんは、1981年49歳の時、益子へ。その後、済州島の四・三事件についての詩『漢拏(ハルラ)山』を初めとして、広島・長崎、アジア太平洋戦争の被害者を鎮魂したパートナーの石川逸子さんの詩「千鳥ヶ淵へ行きましたか」、尹東柱(ユン・ドンジュ)の詩、ショア(ホロコースト＝ユダヤ人虐殺)、スベトラナ・アレクシエーヴィッチの「チェルノブイリの祈り」、フクシマ、花岡事件などの中国人強制連行など、多くの「声なき人々の声」を陶板に刻み込んでこられました。

私は、2年前の2015年5月のリニューアルオープンのおきお会いし、この間微力ながらお手伝いをさせて頂いています。昨年10月平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会(アウシュビッツ平和博物館＝福島県白河市にて)に参加させていただいたり、また、山根和代さんによってINMP

(平和のための博物館国際ネットワーク)のニューズレター第17号(昨年12月)や、今年4月のベルファストの会議でも紹介して頂きました。是非、一度訪ねてみて下さい。開館は春期(4-6月)と秋期(9-11月)の金土日の12-16時です。東京からですと、秋葉原発の関東やきものライナーが便利です。詳細はホームページ(英語、中国語、韓国語も、お知らせ、Newsあり)をご参照下さい。

<http://chorogan.org/>



『漢拏(ハルラ)山』

中帰連平和記念館

事務局 芹沢昇雄

私たちは昨年11月に「10周年集会」を迎えることができ、会場の「ウエスタ川越」に200人余りがご参加下さいました。講演には元憲兵隊長で731部隊にマルタと呼ばれた中国人22人を自ら七三一部隊に送った元中帰連・上坪鉄一さんのご遺族の伊東秀子さん(弁護士・元衆院委員)と、昨年8月に逝去され当記念館の「名誉顧問」をお引き受け下さっていた、むのたけじさんのご子息の武野大策さん(医学博士)のお二人の会員に講演をお願いしました。その他に「パネルディスカッション」や会場展示なども行いました。

昨年度は一般市民の他にも中国中央TV(CCTV)や江蘇省TV局、韓国『環球時報』の金孝淳・元編集長などが取材に来館下さ

いました。また庄司興吉先生(東大名誉教授)など学者の皆さんも来館下さり、朝日新聞夕刊連載の『新聞と9条』でも広く中帰連のことが紹介されました。昨年8月には北京で開かれた『日本人戦犯釈放60周年記念シンポジウム』にも松村高夫理事長や伊東秀子さんも参加発表しました。

昨年8月には長野県松代市で開かれた『戦争遺跡保存全国ネット』に参加、11月に「アウシュビッツ平和資料館」で開かれた当会の「全国交流会」にも松村理事長ら7人が参加しました。また中国からは「中国友誼促進会」や「撫順戦犯管理所」なども来日・来館し交流を図っています。記念館ホームページは、次の通りです。

<https://npo-chuukiren.jimdo.com/>



東京大空襲・戦災資料センター

山辺昌彦

2017年3月を中心に東京大空襲・戦災資料センターの主な取り組みを紹介します。

共同研究「戦中・戦後の「報道写真」と撮影者の歴史学的研究—東方社カメラマンの軌跡」は、2015年度研究成果報告書『空襲被害を撮影したカメラマンたち—東京空襲を中心に—』と2016年度研究成果報告書『戦中・戦後の記録写真Ⅱ—林重男・菊池俊吉・別所弥八郎所蔵ネガの整理と考察—』

を2017年3月10日に刊行し、共同研究は終了しました。

共同研究「戦後都市社会における空襲被災者運動の歴史学的研究」の研究成果の中間発表として、2017年第1回特別展「空襲被災者と戦後日本」を2017年2月25日～4月9日の会期により東京大空襲・資料センター2階で開催しました。来館者は1300人でした。2月25日に大阪空襲訴訟を伝える会の安野輝子さん「語り伝えたいこと―戦災傷害者のひとりとして」と、3月4日に元全国戦災傷害者連絡会事務局長の岩崎建彌さん「戦災傷害者の歴史をつくった女(ひと)―杉山千佐子とその人生」の2回の記念講演会を開きました。映画会は1989年中京テレビ制作の『チェと空襲』を3月19日と4月1日の2回上映しました。4回の講演会と映画会を合わせて参加者は約140人でした。

「東京大空襲を語り継ぐつどい―東京大空襲・戦災資料センター開館15周年」を、2017年3月5日に江戸東京博物館で350人の参加で開催しました。講演は、白神優理子さん「若い世代が東京大空襲を語り継ぐということ―『日本国憲法は希望』―」で、東京空襲体験は藤間宏夫さんが語りました。

2017年5月5日には「世界の子どもの平和像16周年のつどい」が東京大空襲・戦災資料センターで開催され、写真家の安島太佳由さんが太平洋の戦闘地に今も残る未帰還兵士の遺骨について講演しました。

右翼によるwamへの 攻撃に抗して

アクティブ・ミュージアム
「女たちの戦争と平和資料館」(wam)
館長 池田恵理子

今年で施行から70年を迎えた憲法記念日に、安倍首相は「2020年には憲法を改正したい」と述べました。「戦争ができる国づくり」を進めてきた首相は、特定秘密保護法や安保関連法を成立させ、“現代の治安維持法”とも言うべき「共謀罪」まで強引に通そうとしています。このように、戦争をやりがっている人たちが葬り去りたい日本の戦争加害が、「慰安婦」問題と南京大虐殺です。

「慰安婦」問題では、2015年末、日韓両政府は「最終的、不可逆的な「合意」に至った」と発表しましたが、韓国の被害女性や韓国世論が強く反発し、新大統領も納得していません。ところが政権への批判を忘れた日本のメディアはこの「合意」で一挙落着と報じてきたので日本の世論はそれに同調し、日韓のギャップは広がるばかりです。

一方、昨年5月、日本とアジアの「慰安婦」支援団体がユネスコの世界記憶遺産に『日本軍「慰安婦」の声』を共同申請してからは、この日本委員会の中心にいるwamに対して、右派メディアのwam批判が繰り返され、爆破予告の脅迫状が2回にわたって送りつけられる事件も起こりました。

しかしwamは広範な国内外の連帯活動に励まされながら、「慰安婦」の被害と加害の記録を収集・保存・共有し、この記憶を次世代に継承してこうとしています。いよいよアーカイブ事業も本格化してきました。この4月には、アジア各国の博物館からゲストを招き、第1回「慰安婦」博物館会議を開催しました。ここでは充実した報告と議論で盛り上がりました。「慰安婦」の存在と戦争犯罪を認めまいとする歴史修正主義者との闘いには、やはり記録と記憶の集積こそが有効だということが共有できました。また、各国で若い世代がこの問題を引き継いでいることも印象的で

した。たとえ全ての被害女性が亡くなくても、「慰安婦」問題に真の解決がない以上、日本政府を告発する声が止むことはないでしょう。

wamはこの7月末までビルマ展を続け、8月からは日本人「慰安婦」に焦点を当てた第15回特別展を開催する予定です。「慰安婦」問題が「記憶の暗殺者」たちによって再び抹殺・消滅・忘却されないよう、私たちはアジアの人びとと連帯して、「慰安婦」被害者の声と貴重な資料・情報を集積し、発信し続けていきます。

第五福竜丸をつくった匠の技

第五福竜丸展示館 学芸員 蓮沼佑助

5月の修学旅行シーズンには、多い日で1日10校ほどの小中学生が見学を訪れ、展示館は熱心に学ぶ子どもたちでにぎわいます。

第五福竜丸は1947年に建造されてから今年で70年<古稀>を迎えます。戦後混乱期に建造され遠洋漁業に従事した木造漁船として第五福竜丸は文化的、産業的にも非常に貴重です。この木造漁船としての意義をアピールすることは、平和を発信する船として福竜丸の持つ役割を大いに発揮するためにも重要だと考えています。

3月の終わりまで「この船を知ろう～第五福竜丸70年の航跡」と銘打ち、建造から現在に至るまでの船の歴史を振り返る特別展を開催しました。6月17日(土)からは建造70年記念第二弾として「この船をつくろう～船大工 匠の技」展がスタートします。第五福竜丸と同型の木造漁船の建造過程を三重県水産研究所から提供していただいた記録写真や、三重県伊勢市の船大工さんの証言をもとに描いたイラストなどを

展示して解説します。

また現在、建造70年を言祝ぎ、子どもたちの描いた「福竜丸の絵」の募集を行っています。展示館を訪れ自らの目を見た福竜丸、平和の港を目指して航海をする福竜丸、子どもたちに囲まれ平和を訴える福竜丸など、自由なイメージで描いた第五福竜丸の絵をぜひ送って下さい。

<絵の募集について>

応募資格：中学生以下

募集期間：2017年8月31日まで

規格：A3以下の用紙で提出(デジタル不可)

画材自由(写真・立体不可)

応募方法：住所・氏名・学年・絵のタイトルを裏面に明記し、

〒136-0081 江東区夢の島 2-1-1 第五福竜丸展示館「福竜丸の絵」募集係宛に郵送(送料は本人負担)。

*応募作品は返却しません。作品の権利は第五福竜丸平和協会に帰属します。

*受賞作品は10月の企画展とあわせて展示館内に展示します。応募者全員に記念品進呈します。

10周年を迎えました

山梨平和ミュージアム 浅川 保

2007年5月26日に山梨平和ミュージアム(YPM)が甲府市朝気の地にオープンして、この5月でちょうど、10年経ちました。この6月25日には、孫崎享氏を講師に、10周年記念講演、行事を行いました。

お陰様でこの間の見学者は、14,000名を超え、半年ごとの企画展、毎月の企画行事等に積極的に取り組み、今年1月15日に、北海道新聞、29日に、東京新聞に大きく掲載されるなど、全国的にも注目されるようになりました。特に東京

新聞掲載の影響は大きく、1月29日以降、東京と近県からの見学、問合せが相次ぎました。

YPMが開館以降のこの10年、日本の政治状況は、自民党→民主党→自民党政権と大きく変わりました。特に、12年からの第2次安倍政権は、13年の特定秘密保護法の制定、15年9月の安保関連法の強行、そして、今「共謀罪」の強行、森友疑惑の隠蔽等、政権による立憲主義否定、国政の私物化は止まる所を知りません。戦後、私たちが確立・維持してきた、日本国憲法、平和と民主主義が危機を迎えており、私たちYPMの存在価値も問われているかと思えます。これまでの活動を総括しつつ、「温故創新」の新たな歩みを続けていきたいと思えます。一層のご支援、ご協力、ご鞭撻をお願いします。昨秋から開催してきた企画展「石橋内閣60年、今、石橋湛山に学ぶ」に代わり、6月4日からの企画展・「平和の港」10年の歩みを始めました。内容は、8月刊行予定の『「平和の港」10年の歩み』(112頁 予価 1000円)の概要、ポイントをパネル化し、それに、この間の会報、新聞記事等の資料を展示しています。関心のある方、見学にお出で下さい。

「ピースあいち」と 「ケーテ・コルヴィッツ」

ピースあいち 丸山 豊

今年の夏、ピースあいちで「いわさきちひろ展」が開催される。これに先立ち3月には「原爆の図展」が行われた。丸木夫妻とちひろがピースあいちでつながることになる。これは画期的なことだ。

「原爆の図展」では、丸木位里と俊のヌードデッサン画が話題を呼んだ。そのモデルはいわさきちひろだったからである。周知のとおり、ちひろは俊に師事した。二人の表現方法はまったく正反対だったが、底

流ではつながっている。

その源はヒトラーから弾圧されたドイツの女性版画彫刻家、ケーテ・コルヴィッツではないかと勝手に推測する。

コルヴィッツの《種子を粉にひいてはならぬ》、この石版画をはじめて見たのは1984年版の実教出版の「高校世界史」の教科書の中扉の写真であった。3人子どもたち抱きしめ、毅然と顔を上げて睨みつけている母親に引きつけられた。「母親が睨む相手は誰なのか」「種子を粉にひくとは」「この母親は誰か」など生徒に問いかけた。ちひろの《戦火の中の子どもたち》の母子の絵を見た瞬間《種子を粉にひいてはならぬ》と重なった。

俊の《原爆の図》の中に描かれている母子像では、ケーテ・コルヴィッツの《ピエター-死んだ息子を抱く母親》が頭に浮かんだ。

戦前、モスクワの美術館でケーテ・コルヴィッツを観て大きな影響を受けた俊は、ちひろにもその時の感動を伝えたに違いない。俊とちひろ、二人の作品には共に相通じる生き方を見ることができる。

立命館大学国際平和ミュージアム

専門委員 山根和代

2017年度 春季特別展では、**DAYS JAPAN フォトジャーナリズム写真展**が2017年4月15日(土)~7月9日(日)に開催されています。現在の日本におけるメディアのあり方を問うDAYS JAPANは、戦争、貧困、環境問題など現在起こっている様々な問題を私たちに伝えています。DAYS JAPANが開催する「DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞」は、日本ではじめての本格的な国際レベルのフォトジャーナリズム

の賞です。人間と自然の尊厳が奪われていることを告発する作品、人間と自然の尊厳を謳い上げる作品、心温まるストーリー、自然と動物のドキュメンタリー作品の部門から審査が行われています。本展は、これまでの受賞作品を展示し、世界が抱える問題とそこに生きる人々の姿を知り、いま一度、平和とは何かを考えるきっかけにしたいと開催するものです。

第108回ミニ企画展示では、「ミュージアム・この1てん もうたくさんだ」を2017年6月1日(木)～6月30日(金)に開催しています。6月23日は、沖縄県が制定する沖縄戦犠牲者を慰霊する日です。これにあわせ、沖縄戦やアメリカ軍基地問題などのテーマで出身地沖縄を描く儀間比呂志(1923-2017)の版画作品を展示します。住民視点を重視し、力強い線で描かれた作品は、私たちに多くのことを訴えます。

2017年度 春季特別展関連企画 映画『広河隆一 人間の戦場』上映会&フォトジャーナリストである広河氏の講演会を5月4日に開催しました。会場は満席で、参加できない人が出るほど多くの方が来られました。

5月19日(金)、国際平和ミュージアムは開設25周年を迎えました！ 当ミュージアムは世界初の大学立の平和博物館として1992年5月19日に設立され、国内外のグローバルなネットワークや地域社会との連携のもとで、平和構築のための取り組みを行っております。昨年は平和教育研究センターの設立や次期ミュージアムリニューアルの検討など、2020年に向けた次世代型のミュージアムの創造をめざしています。世界情勢の急激な変化の中で、様々な課題(紛争、人権、格差、貧困、教育、環境等)に向き合い、それをどのように克服し平和を構築していくのか、展示や教育研究活動を通して社会に問いかけ発信していきます。

6月14日(水)、ミュージアム学生スタッフ企画のNGOワークショップ「難民・国内避難民問題×イラク ～JVCと現地NGOインサーンのイラク中北部キルクーク市での取り組みについて～」をし、多くの学生が参加しました。



**731部隊罪証陳列館と
平和資料館・草の家の交流すすむ**

副館長 岡村 啓佐

平和資料館・草の家では、2016年3月に侵華日軍731部隊罪証陳列館の金正民館長はじめ4名の訪問を受け、その際、両館が今後交流を深め調査・研究に協力していくことに合意しました。その後6月に、草の家が金正民館長からの招待を受け代表4名が陳列館を友好訪問する機会に恵まれました。

陳列館では岡村啓佐(団長)が30名余りの館職員を前に、草の家の活動紹介と、「戦後の731部隊」について約1時間余り報告することができました。731部隊関係者は

戦後アメリカに資料を提供することによって戦犯を免責されたこと、731 部隊関係者はアメリカの核開発競争を支えるために、広島・長崎そしてビキニ事件の隠ぺいに手をかしてきたこと、そしてその弟子たちが福島原発事故の放射能被害を過小評価するなど、731 部隊の悪魔の系譜は今日の日本社会に継続していることを明らかにしました。

その後、(甲方) 侵華日軍 731 部隊罪証陳列館と(乙方) 平和資料館・草の家とで「合作協議書(協力協議書)」を正式調印し、歴史の資料、文物をさらに一層充実させるために、甲、乙双方による共同友好関係を深め、調査・研究を進めていくことになりました。



「2017 Peace Wave in 高知」始まる

高知市を中心にして毎年繰り上げられる平和の風「Peace Wave in 高知」も 39 回を数え、今年も多彩に取り組まれます。スタートは第 35 回平和七夕まつり(7/2~7/31)と、第 34 回反核平和コンサート(7/2)から始まります。第 34 回平和美術展(7/4~7/9)、第 39 回戦争と平和を考える資料展(7/9~7/17)、第 34 回平和映画祭(7/15、7/16)、第 21 回ピースアクション in こうち(7/22)、第 11 回掩体コンサート(8/27)など多彩に続きます。また今年も全国行事である第 21 回戦争遺跡保存全国シンポジウム高知大会も平和の風行事と位置づけ成功のために取り組みます。(問合せ先: 平

和資料館・草の家 Tel.088-875-1275)

『ビキニ核被災ノート』 — 隠された 60 年の真実を追う —

元マグロ漁船員 32 名の証言が一冊の本にまとめられたのは『ビキニ核被災ノート』が初めてです。政府の 60 年にも及ぶ隠ぺいとウソが証言によって明らかになっていきます。また、なぜビキニ事件が日米両政府によって隠ぺいされたかも解明し、ビキニ各被災国家賠償訴訟の争点を明らかにしています。

今、国連で議論されている「核兵器禁止条約」前文と第 6 条の核兵器使用による被害だけでなく、核実験の被害者の苦難に留意し、救済することの重要性を訴える貴重な証言集でもあります。

税込み定価 1000 円 + 郵送料(注文先: 平和資料館・草の家 Tel. 088-875-1275 fax088-821-0586)

岡まさはる記念長崎平和資料館

事務局長 崎山昇

高實康稔理事長は、昨年秋肺炎で入院後、体調が良くなり退院を繰り返されていましたが、4 月 7 日未明、心不全でお亡くなりになりました。回復を祈念してきましたが、復帰はかなわず、本当に残念でなりません。5 月 7 日「高實康稔さんとお別れの会」を行い、皆さんと一緒に生前の活動を偲び、お別れをするとともに、遺志を引き継ぐ決意を新たにしました。

資料館では 4 月 27 日に理事会を開き、後任の理事長に園田尚弘副理事長を選任し、理事会として高實前理事長の遺志を引き継いで行くことを確認しました。

さて、昨年 8 月 2 日「弾圧に抗し戦争に

反対した人たち」のコーナーを新設しました。徐勝さんの提言を実践するとともに、岡正治氏の構想をようやく実現することができました。8月27日から9月3日まで「ドイツに学ぶ旅」を企画しました。資料館で受け入れた良心的兵役拒否をした青年や独日平和フォーラムとの交流や過去の克服とどう向き合ったかドイツの取り組みを学ぶことなどを目的に、高實理事長を団長に大学生1人を含む9人でドイツを訪れました。12月3日に南京大屠殺記念館の朱成山名誉館長をお迎えし講演会を行いました。12月11日から16日まで第14回《日中友好・希望の翼》・第16次友好訪中団として、第32次銘心会南京友好訪中団（団長：松岡環さん）に合流させていただき、私と大学生の2人が南京を訪れ、12月13日の南京大屠殺死難者国家公祭儀式に参加しました。若い人たちにつなげていくためには、私たちが資料館の使命を自覚し、資料館を担っていくことが必要であることを強く感じる旅になりました。

ひめゆり平和祈念資料館

学芸課 前泊克美

2016年12月、冬休み特別企画「平和講話」を4回開催しました。夏休みにも開催しましたが、家族旅行の多い冬休みにも継続で実施しています。12月24日には教員向けの企画として「教員のための展示ガイドツアー」を開催しました。

2017年3月13日には、県内のバスガイド・平和ガイド団体対象の「ガイド向け講習会」を実施しています。展示室とひめゆりの塔のガイドツアーと質疑応答などを行いました。証言員（ひめゆり学徒隊生存者）7人が質疑応答に参加し、戦争は絶対

にいけないと、それぞれの体験のなかでお話しされていました。特にバスガイドさんには若い人が多く、沖縄戦の詳細な学びはこれからでも、証言員の平和への強い思いがまっすぐに伝わる場になっていることを毎回感じています。

2017年3月19日、平和ガイド諸団体からの希望で、現在開催中の特別展「ひめゆり学徒隊の引率教師たち」の関連合同学習会を行いました。平和ガイドには元教員も多く、ひめゆり学徒隊の引率教師たちが過ごしてきた時代がまさに現状と重なっているのではないかと危惧する方や、自分事として考えたという方もいらっしゃいました。特別展は3月末終了予定でしたが、好評につき、11月下旬まで会期を延長することにいたしました。ぜひ多くの方、特に子どもたちの学びを導いていく教職員に見て頂きたい展示です。

そして、去った（編集者注：沖縄の表現で「去る」の意味）4月の国際平和博物館会議に、当館からも4人参加させて頂きました。会議での報告も含めてミュージアム視察などで多くのことを吸収してきたようです。今後の資料館活動への示唆になることを持ち帰ってきてくれたと思っています。博物館・市民ネットのみなさまにもお世話になりました。ありがとうございました。

今年12月には、「ひめゆり未来へ—次世代継承の軌跡と展望（仮）」＋「ヨーロッパ平和交流の旅Ⅱ（仮）」という2つのテーマで企画展を行う予定です。

Tel:098-997-2100 Fax:098-997-2102

HP <http://www.himeyuri.or.jp>

FB

<https://www.facebook.com/HIMEYUIRI.PEACE.MUSEUM/>



Dancing Tree by Pegge Patten(USA)

海外の平和博物館ニュース

「平和のための博物館国際ネットワーク (INMP)」通信の日本語版をご覧ください。下記の HP で読むことができます。

<https://www.inmp.net/newsletters-in-japanese/>

編集後記

INMP 国際会議における報告の和訳、感想文、資料をまとめつつあります。また INMP 通信 18 号は、安齋育郎先生編集の特集号で、日本語版も含めて INMP のウェブサイトに掲載されます。

『ミューズ』は「平和のための博物館市民ネットワーク」の会員から寄せられるニュースによって内容が豊富化されます。編集に当たっている私たちは、皆さんからの積極的な投稿を期待しています。

「市民ネットワーク」の事務局業務は、現在、「戦争と平和の資料館ピースあいち」が担当していますが、今後の体制については現在検討中です。2017 年 12 月 9 日・10 日に「市民ネットワーク」の全国交流

会が立命館大学国際平和ミュージアムで開かれます(担当:安齋育郎・山根和代)。記念講演では「ダーク・ツーリズム」の問題が取り上げられる予定で、追手門学院大学の井出明さんの問題提起を受けることになっています。

会期 1 日目～2 日目には会員の皆さんからの活動報告や問題提起を予定していますが、2 日目の午後は京都鉄道博物館の見学を計画しています。ご承知の通り、京都は 1945 年 7 月には原爆投下の第一目標でした。目標地点は京都駅の西約 1 キロメートルの梅小路蒸気機関車区の円形ターンテーブル(転車台。機関車が一つの路線から別の路線に移るための円形上の仕組み)で、現在の鉄道博物館にあります。京都への原爆投下の爆心予定地を見て頂いた後は、いま話題の鉄道博物館を存分にお楽しみ頂く予定です。

全国交流会全体の詳細プログラムは 10 月に入ってからご案内いたしますが、どうぞ「2017 年 12 月 9 日・10 日、京都での開催予定」をメモして頂きますよう、お願い申し上げます。

市民ネットワークの活性化を!

よく言われるように、日本は「平和博物館運動がある唯一の国」と言われます。複数の平和博物館関係者が経験を交流しあい、共通の話題について率直な意見交換を行うことによって、平和博物館全体の底上げを図る活動です。日本には「日本平和博物館会議」と「平和のための博物館市民ネットワーク」の活動をいっそう活性化し、平和文化、平和教育の発展に貢献したいものです。皆さんの積極的な参画を心より期待します。